

グランプリ & 優秀賞

〈番組部門〉

ドキュメンタリー

ロイヤルミステリー
皇后のドレスの謎

製作会社:ダイメディア 放送局:NHK BSプレミアム

プロデューサー	柳 翔太郎(ダイメディア)	シニアプロデューサー	菅原 健一
ディレクター	西村 麻耶子(ダイメディア)		(NHKエンタープライズ)
	前橋 吾朗(ダイメディア)	制作統括	齋藤 圭介(NHK)
アシスタントディレクター	林 美紗(ダイメディア)		



番組概要

明治の皇后が着用したという現存最古で最高格式のドレス。西洋で作られたと伝わるが修復により内部から和紙が発見。いつ、どこで、誰が作ったのか、謎に迫ると見えてきたのは激動の時代を生きた日本の姿だった。



※敬称略

上方一

受賞者コメント

約1年にわたる長期取材。途中から研究チームとNHKの共同研究となり、私達が撮影する映像自体が資料として大きな役割を担うことになりました。
今回の修復は『研究のために技術が進歩した未来にドレスを遺す』ためのもの。この番組と映像も、そのときっと未来の役に立てくれると信じています。
数年先、数十年先に映像を遺す。テレビの可能性を改めて考えさせてくれる大切な番組になりました。

ダイメディア
プロデューサー 柳 翔太郎



審査講評

皇后のドレスがどのように仕立てられたのか。その謎を徐々に解き明かしながら、時代背景、携わった人達の思いを描いた秀作。繊細で根気強いリサーチで得られた事象を緻密に構成・映像化した演出は見事でした。

投票社から(一部抜粋)

- ・明治時代の大礼服の修復に伴う謎を、飽きさせず大きなスケール感で描ききった力量に感服。演出に携わる人間として、羨ましい素材と制作環境に恵まれた結果だとも思います。民放では中々できない見応えのあるコンテンツとして秀逸でした。
- ・圧倒的なスケール! 4K制作にふさわしい映像美・企画で魅せた見応えのあるコンテンツ。「皇后のドレスの謎」という切り口で冒頭からググッと物語に引き込まれ、最後まで一気に見てしまった。力強い構成。ともすれば再現や、服飾の専門的なところに深堀してしまいそうなネタを、取材映像で描いた点が素晴らしい。京都コンテンツの可能性を改めて感じた。
- ・細部までこだわったドレスを解説とともに繊細さがわかる映像で見せられる編集が良かった。ドレス一つなのに、ロイヤルシークレットとしている入り口も興味が沸き、ストーリーがしっかりあって見やすかった。
- ・国の要人が身に纏う大礼服ともなれば、作った国の歴史や文化、技術がすべて詰まっているのだと、感服した。縫製のCGもとてもわかりやすく、興味を持って視聴することができた。日本の服飾文化が、この時期から和装から洋装に変わった転機だったかもしれないということを知り、ますます惹きつけられて最後まで見る事ができた。

投票参加校から

- ・専門家が深く関わっていて一つの礼服から歴史や人物像、社会動向まで秘密が解き明かされていく過程も興味深かった。「知らなかった」という思いから驚きを与える内容であり、取材が徹底されていて驚きばかりだった。
- ・かつて和装であった日本のドレスを、世界各国から集まった専門家たちが調べ修復する作業は意義深く、映像に残す意味も大きい。専門的な研究のプロセス等を見ることができ、良質な教養番組となっている。
- ・ミステリー形式を採用することで、日本や海外の伝統的な文化や歴史への興味を、より具体的に視聴者に抱かせるような構成になっていた。また、随所に誰でも一度は目にしたであろう有名な絵画を使っの説明もとてもわかりやすく、よく練られた構成である。

最優秀新人賞

まつ おか が しょう
松岡 雅梓 (ダイメディア)

ドキュメンタリー

新日本風土記「神戸 長田」

放送局: NHK BSプレミアム

プロデューサー 河野 純基 (ダイメディア)



番組概要

古代からの歴史とソース文化や地蔵盆など独自の暮らしが息づく街、長田。春を呼ぶイカナゴ漁、ラーメン屋台を50年引き続ける元椅子職人、靴産業の未来を担う若者の思いなど…震災から29年を前に送る下町の物語。



※敬称略

受賞者コメント

大変な過去を背負いながらも生きるパワーと優しさが溢れる街、長田。理由が知りたくて格闘した1年でした。人のつながりをどう描くか、共に歩き思案してくれた矢内Dとダイメディアの皆様。日常に宿る人間の美しさを記録して下さった濱崎カメラマンと翔の会の皆様。困難があっても前に進む人々の物語の核心を見極めて下さった編集の行徳さん、林P、伊藤P、制作チームの皆様。生きる喜びを教えて下さった長田の皆様にご心より御礼申し上げます。

ダイメディア
ディレクター 松岡 雅梓



審査講評

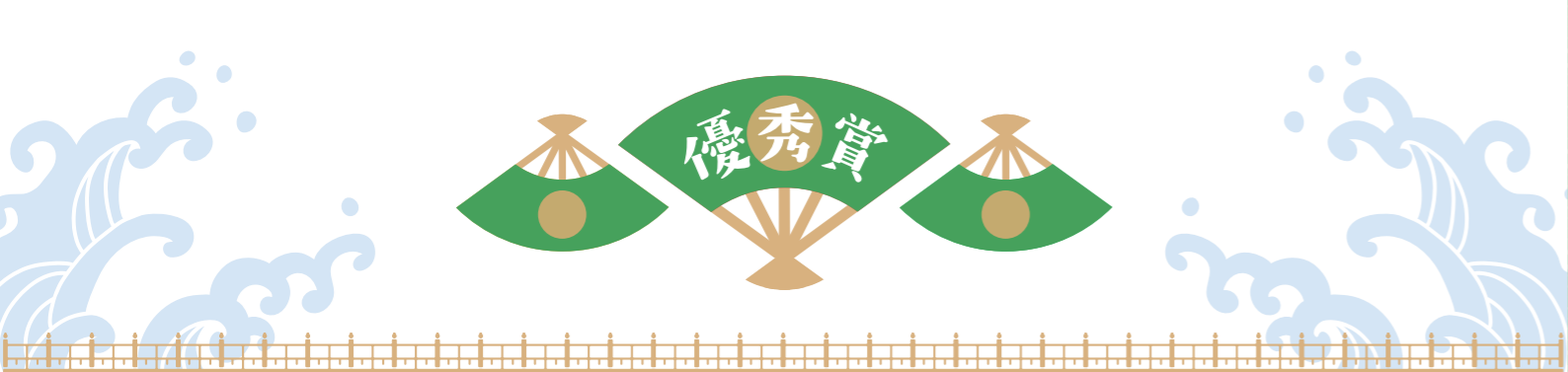
神戸・長田の中身の濃い取材対象を多数集めたリサーチ力に完敗。どの取材も丁寧で、しっかりその人の心に寄り添いコミュニケーションが取れている秀逸な作品。多数のネタを一人のディレクターで作上げたのもビックリです。



投票社から(一部抜粋)

- ・取材対象者が多岐にわたるので、やや総花的な印象にはなるが、これぞ「長田」というアイコンが次々に登場し、またそれに絡む人々のなんと魅力的なことか。構成力も優れ、編集での現場音の活かし方も含めて極めて完成度が高いドキュメンタリー。正直グランプリに推したいほど。
 - ・兵庫県神戸市長田区の人々や文化、背景となる歴史、社会的問題点など様々な切り口のテーマで番組が構成されており、大変見応えのある作品になっていた。映像も住人達の姿だけでなく、情緒が感じられる構成となっており、作品としての完成度の高さを感じることができた。
 - ・単なる町紹介に留まらず、1年を通じて丹念に取材することで、歴史・伝統・風習・民族など長田という町の全容を描写。レギュラーとしてのフォーマットがない中で飽きさせずに描き切った力量に脱帽です。ナレーションなどの使い方にも工夫が見られ楽しめた。
 - ・長田という街を、愛情と客観性をもって密着している。震災・出身などのテーマも、当時だけでなく今の目線もいれて未来を感じさせる構成力は素晴らしい。長田に立ち寄りてみたくなった。
 - ・自ら企画し、すべての取材を一人でこなし、高いクオリティの番組に仕上げた力量は、新人離れしていると感じた。関西のテレビ業界でますますの活躍を期待します。
 - ・震災を乗り越えてきた長田の人々の力強さを丁寧に取材している。取材対象への優しいまなざしが感じられた。
 - ・製作に1年間費やしたと言うこともあり、内容が非常に充実していたと思う。長田の暮らしや伝統行事のことがよくわかった。いまではあまり見かけなくなった屋台のチャルメラ。埼玉県出身の店主が、挫折をきっかけに長田で屋台を引くことになった。事実は小説より奇なりというが、不思議なご縁があるものだ。人生はいつでもやり直しができることを教えてくれた。
 - ・震災復興の再開発により街が失われた…とも言われる神戸・長田をテーマに、失われたかに思われた下町の情緒、人々の温もりや個性的な人物との出会いが、丁寧に描かれています。
- ドキッとして安パイに落としてしまいそうなノイズも使われていて、作者のこだわりを感じました。
- ・関西で育った人は靴のまち「長田」、あるいは神戸の震災から復活した「街/長田」のイメージが強い。この番組はその長田にじっくりと腰を据え取材、カメラを意識せず、取材対象の個性と生き様を表現している。夜泣きラーメン屋さんに「こんな人生があったんだ」と、それだけでも十分納得できる番組でした。淡々と描きじんわりと見せてくれた演出家の眼差しに共感を覚えた。
 - ・「鉄人28号」「震災」「ソース文化」など多面的に街を映しながら、根底になんとも言えない筋が通っているように感じたのは何故かと考えた時に、1人のディレクターによる演出だからなのだと腑に落ちた。

超新人



番組部門、短編・コーナー部門の応募作品の中から優れた番組に対して贈られる賞

※敬称略。 ※受賞作品の掲載はエントリー順となっています。

番組部門 関西の製作会社、製作者が製作した番組やネット配信番組が対象

情報・バラエティ

ナジャの履歴書作ってみました。 平成～令和ヒット商品史



製作会社 ブリッジ
放送局 テレビ大阪
プロデューサー
生原 敬太(テレビ大阪)
演出・ディレクター
広部 裕子(ブリッジ)

◆受賞者コメント

初めて演出をさせて頂いた番組で名誉な賞を頂き、とても光栄です。
スタッフ一同、営業パブリシティ的な商品紹介にとどまらない“ちょっと変な”番組にしたいという思いで制作しました。自然体なナジャさんの魅力が伝われば、何より嬉しいです。

ブリッジ
演出・ディレクター 広部 裕子



ナジャ・グランディーバの波乱の人生【履歴書】を振り返りながら、昭和・平成の懐かしいヒット商品と進化を遂げる令和の新品を紹介する番組。

審査
講評

出演者の半生と、その時代の出来事・ヒット商品をリンクさせる発想、その縦軸に最新商品の情報を違和感なく番組としてまとめあげた演出は秀逸です。出演者の新たな魅力も感じることが出来る作品でした。

情報・バラエティ

伝説のアナザーネーム その名に秘められた変革者たちの物語



製作会社 ytv Nextry
放送局 読売テレビ
プロデューサー
藤本 知津(ytv Nextry)
ディレクター
平野 玲二(ytv Nextry)

◆受賞者コメント

ディレクターと技術チームがこだわり抜いた至極の再現ドラマが評価されたことは大変嬉しく思います。また、メタパス内での公開収録は実現までにトラブルも多々ありましたが、こうした新たな挑戦も続けていきたいと思えます。

ytv Nextry
プロデューサー 藤本 知津



アナザーネームとは、その人が持つ「別名」のこと。皆を幸せにするために偉大な功績を残した人が“アナザーネーム”を持つまでに至ったストーリーから、物事の本質を学ぶ新しい知的エンタテインメント番組。

審査
講評

アナザーネームを切り口にした偉人伝。クオリティの高い再現ドラマと企画・演出が光る作品でした。さらにメタパス空間を使っでの公開収録は新鮮で、番組製作の新たな可能性も感じることが出来ました。

情報・バラエティ

関西人の本音をお届け！ ぶっちゃけツッコミ劇場



製作会社 レジスタエックスワン
放送局 毎日放送
プロデューサー
中村 武史(毎日放送)
古田 隆文(レジスタエックスワン)
演出
岡本 和樹(レジスタエックスワン)

◆受賞者コメント

優秀賞に選んでいただき誠にありがとうございます。僕自身、初めての演出で不安だらけでしたが、ご指導いただいた先輩方、支えてくれた後輩たち、そして何よりも、厳しいツッコミに受けて立ってくれた企業の方々のおかげで、おもしろい番組に仕上がったと思います！目指せレギュラー化！！

レジスタエックスワン
演出 岡本 和樹



「餃子の王将」「ダイソー」「姫路セントラルパーク」といった人気企業に関西人が本音でツッコミ！それに対する企業の「返し」から、納得の理由や驚きの裏技が明らかになります！

審査
講評

関西人の容赦ないツッコミに企業が乗っかりながら返すという対立構造は、まさに大阪でしか成立しない企画。また、情報と笑い、VTRとスタジオ展開がうまく構成され、立体的なおもしろさを感じられる秀作でした。

短編・コーナー部門 関西の製作会社、製作者が製作した20分以内の短編番組やコーナー部分、ネット配信番組が対象

情報・バラエティ

よんちゃんTV

特集「密着」阪神戦支える駅長のウラ側 試合日の甲子園駅を密着



製作会社 東通企画
放送局 毎日放送
プロデューサー
松井 宏文(毎日放送)
特集デスク
長富 剛(毎日放送)
高田 裕介(毎日放送)
ディレクター
進藤 康幸(東通企画)

「よんちゃんTV」は生放送の報道・情報番組です。全国や関西のニュースを「現場」から伝える中継、そして専門家をスタジオに招いてニュース解説、特集VTRや生活情報もある盛りだくさんな3時間です。

◆受賞者コメント

阪神の日本一と時を同じくして受賞できたことは大変嬉しく関係者のみなさまにお礼申し上げます。いま起こっているできごとをありのままに伝え「素材の味」で勝負する！VTRに磨きをかけて現場で生きていきます！

東通企画
ディレクター 進藤 康幸



審査
講評

誰もが「どうしているの？」と興味あるネタを見いだす力が光った作品。丁寧な密着取材に雨や延長戦など予想外の展開もあり、難しい判断を迫られる駅長さんの姿が緊迫感を持って描かれた秀作でした。

ドキュメンタリー

グリーン★一番星



製作会社 ダイズ
放送局 毎日放送、BS-TBS
プロデューサー
榛葉 健(毎日放送)
チーフディレクター
山崎 卓也(ダイズ)

◆受賞者コメント

食べ物を通して世の中の人々の健康・幸せに寄与し、生産者の喜び・生きがいまでを映し出す、「人」に取材する本質をこの番組から学びました。これからも難しい取材対象から逃げずに向き合い、映像という形で伝えていきたいです。

ダイズ
チーフディレクター 山崎 卓也



審査
講評

オーガニック野菜の生産者の人生に焦点を当て、オーガニック栽培の必要性や課題を端的に表現した秀作。野菜や自然の瑞々しい色彩、野菜に愛を注ぐ野菜ソムリエの思いまでも短い時間の中に映し出していました。

情報・バラエティ

サタデープラス 幸せいっぱい!自己流ライフ



製作会社 レジスタエックスワン
放送局 毎日放送
プロデューサー
藤島 淳史(毎日放送)
ディレクター
南 繁(レジスタエックスワン)

◆受賞者コメント

50代の中年のおっちゃん3人組が一流企業を早期退職し、五島列島で酒造りに挑む姿を描きました。50代の私を含め視聴者にも勇気を与えられたのかな、と感じております。全ての人に感謝です。ありがとうございました。

レジスタエックスワン
ディレクター 南 繁



審査
講評

早期退職し、五島列島でジンを生産する会社を立ち上げた3人の男性の笑顔が印象的な作品。日々の作業だけでなく、地元へ溶け込もうとする姿、家族のコメントからも幸せがいっぱい感じられ、勇気づけられる秀作でした。

土曜日の朝から“元気になれる番組”です。

ドキュメンタリー

アオハル最前線 部活が教えてくれたコト 伊川谷北高校書道部 「筆よ踊れ!栄光へのパフォーマンス」



製作会社 エー・ピー・シー リブラ
放送局 朝日放送テレビ
プロデューサー
池上 義博(朝日放送テレビ)
チーフディレクター
荒木 拓人(朝日放送テレビ)
ディレクター
井浦 琢朗(エー・ピー・シー リブラ)
編集
吉川 智哉(アイネックス)

書道パフォーマンスの全国大会に挑む兵庫県の伊川谷北高校書道部。県内では絶対的な強さを誇るも全国大会では未だ優勝無し。青春を筆に込めた学生たちが悲願の初優勝を目指すドキュメンタリー。

◆受賞者コメント

優秀賞に選んでいただけたのは伊川谷北高校書道部の懸命な努力があったからこそだと思うので、取材に協力してくれた先生や部員の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。この賞を励みにこれからも関西の様々な部活に励む学生たちを取材していきたいです。

エー・ピー・シー リブラ
ディレクター 井浦 琢朗



審査
講評

馴染みのない書道パフォーマンス。その内容を説明しながらも日本一を目指す高校生の熱い思いも描かれた作品。動きの少ない文化部を、一瞬の表情や何気ない一言を積み重ね、心に残るドキュメンタリーに仕上げっていました。



関西で活躍する若手製作者の作品を対象に、その個人に贈られる賞。

※敬称略。 ※受賞作品の掲載はエントリー順となっています。

よしだ こうき
情報・バラエティ **吉田 光希**(レジスタエックスワン) ◆ 受賞者コメント

発見!仰天!!プレミアもん!!!土曜はダメよ!
クイズ!よみがえれ!純喫茶



放送局 読売テレビ
プロデューサー
橋 庸介
(レジスタエックスワン)

「土曜はダメよ!」20年の歴史の中で10年以上続く、皆様から愛されるコーナーでこのような名誉ある賞をいただくことができ大変光栄です!
この賞を励みに今後も頑張っ参りますので、引き続き宜しくお願い致します!



レジスタエックスワン
ディレクター 吉田 光希

審査
講評

ペナルティのヒデさんが、のびのびふざけていて爽快。古い喫茶店の味ある風情だけでなく、店主の懐に入り込み歴史ある話がこぼれだし、何気ないお店がとても趣のある純度の高い純喫茶に生まれ変わったような気がしました。

ひがし けい じ
情報・バラエティ **東 啓慈**(メディアプルボ)

ウラマヨ!街デミー賞 梅田周辺
中崎町の駄菓子屋さんホリケのVTR



放送局 関西テレビ
プロデューサー
高山 浩児(メディアプルボ)

◆ 受賞者コメント
今回、愛着ある「ウラマヨ!」で受賞することができ非常に嬉しく思います。取材先、サポートをしてくれた上司・AD、視聴者の方々あってのことですので、感謝の気持ちを忘れずに今後も邁進していきたいと思ひます。



メディアプルボ
ディレクター 東 啓慈

審査
講評

駄菓子屋さんのお母さんの人柄の良さが画面からあふれ出ていて、買い物に来た子供たちの生き生きとした笑顔が印象的でした。梅田にこんな温かいお店があることにほっこりしました。明日駄菓子屋さんに行きたくくなりました。

はやし たつ し
情報・バラエティ **林 達士**(エー・ビー・シー リブラ)

朝だ!生です旅サラダ
海外の旅



放送局 朝日放送テレビ
プロデューサー
酒井 聡志
(エー・ビー・シー リブラ)

◆ 受賞者コメント
円滑なロケ進行にアドバイスをくれたコーディネーターさん、出演者、カメラマン、姿を現してくれた南アフリカの動物たち、皆さんのおかげでこのような賞を受賞できました。本当にありがとうございました。



エー・ビー・シー リブラ
ディレクター 林 達士

審査
講評

南アフリカの迫力ある映像に圧巻。ビッグ5が発見できるか、期待感で最後までワクワクしました。4年目での海外取材、通訳がいたとはいえ困難だったことでしょう。運も味方してか ビッグ5を制覇したのはお見事!

日本国内・海外の情報をグルメや絶景、旅先での人々との触れ合いを交えながら紹介する旅バラエティ番組です。

第11回ATP上方番組大賞 総評

第11回ATP上方番組大賞は過去最高となる47のエントリー、受賞式には130人を超える列席があり、盛大に執り行うことが出来ました。

新人賞の4作品は、いずれも新人とは思えない取材力・構成力で見応えがあり、中でも最優秀新人賞を受賞したダイメディア 松岡雅梓さんの『新日本風土記 「神戸 長田」』は、自身が企画、一年にわたる取材、一人で構成・演出するなど、作品への強い思いが感じられました。

優秀賞はドキュメンタリー、大阪だからこそ成立する企画、メタバース空間を視聴者参加の場に使うなど、番組製作の新たな方向性を示唆する作品ばかりで、グランプリを受賞した「ロイヤルミステリー 皇后のドレスの謎」は、繊細かつ根気強いリサーチ、緻密な構成が光りました。

47作品を視聴し、まだまだ上方らしい、上方ならではの番組を生み出せる可能性に力を得ました。

最後になりましたが、開催にあたりお力添えを頂いた皆様にお礼申し上げます。

第11回ATP上方番組大賞 審査委員長
梅景 泰利

会場には、たくさんの方が
来場しました!



会場は、読売テレビ本社
「10hall」で開催しました。



特別仕様の
ロゴもお目見え!



受賞式の様子



関西センター長
河野 純基より
ご挨拶

開幕
いたします。



会場には、投票校5校から教授や
学生さん達も来場しました！

司会は、
渡邊 幹也さん(読売テレビ)と
松川 浩子さん(毎日放送)



審査員 鹿島 我より贈賞



吉田 光希さん(レジスタエックスワン)

新人賞贈賞!



東 啓滋さん(メディアブルポ)



林 達士さん(エー・ビー・シー リブラ)

めでタイ!



ありがとうございます!
ございます!

最優秀新人賞 発表!



ダイメディア
松岡 雅梓さん



発表に、ドキドキのノミネートされた皆さま。



優秀賞 (短編・コーナー部門) 贈賞



賞状とトロフィーが
贈られます



審査員 脇浜 紀子より贈賞



グランプリ
発表!!



審査員 平井 直人より贈賞

優秀賞 (番組部門) 贈賞

グランプリ 受賞!!



ダイメディア 西村 麻耶子さん、柳 翔太郎さん

とりました!



わーい

わーい



審査委員長 梅景 泰利よりご挨拶



理事長
福浦 与一より
ご挨拶

皆さま
おめでとう
ございました!